

Cartan calculi on the free loop spaces

内藤 貴仁 (日本工業大学)

この講演では、自由ループ空間に関連する homotopy Cartan calculus について解説し、それらの性質や具体的計算について紹介する。尚、本研究は栗林勝彦氏、若月駿氏、山口俊博氏との共同研究であり、講演内容は [KNWY] に基づく。

古典的な (homotopy) Cartan calculus の例として、滑らかな多様体 M 上のベクトル場 X に対して定義される、de Rham 複体 $(\Omega^*(M), d)$ 上の Lie 微分 L_X と内部積 ι_X がある。これらは、写像

$$L, \iota : \text{Der}(C^\infty(M)) \rightarrow \text{Der}(\Omega^*(M))$$

を誘導し、Cartan (magic) formula と呼ばれる関係式 $L_X = [d, \iota_X]$ をみたく事が知られている。ここで $[\ , \]$ は、交換子を表す。この構造の定式化が、Fiorenza–Kowalzig [FK] によって次のように与えられている。

定義. (M, d, B) を mixed complex, $(\mathfrak{g}, \delta, [\ , \])$ を dg Lie 代数とする。ここで、 (M, d, B) が mixed complex であるとは、 d, B がそれぞれ次数 $1, -1$ の M の微分で、 $[d, B] = dB + Bd = 0$ をみたくものである。

- (1) \mathfrak{g} の M 上 **homotopy pre-Cartan calculus** とは、次数 $1, 0, (-1)$ の線形写像 $e, L, S : \mathfrak{g} \rightarrow \text{End}(M)$ からなり、任意の $\theta \in \mathfrak{g}$ に対し、次の3つの関係式をみたくものである：

$$L_\theta = [B, e_\theta] + [d, S_\theta] + S_{\delta\theta}, \quad [d, e_\theta] + e_\delta = 0, \quad [B, S_\theta] = 0.$$

- (2) M 上の **homotopy Cartan calculus** とは、homotopy pre-Cartan calculus (\mathfrak{g}, e, L, S) と次数 0 の線形写像 $T : \mathfrak{g} \otimes \mathfrak{g} \rightarrow \text{End}(M)$ であって、任意の $\theta, \rho \in \mathfrak{g}$ に対し、次の2つの関係式をみたくものである：

$$[e_\theta, L_\rho] - e_{[\theta, \rho]} = [d, T_{\theta, \rho}] - T_{\delta\theta, \rho} - (-1)^{\deg \theta} T_{\theta, \delta\rho}, \quad [S_\theta, L_\rho] - S_{[\theta, \rho]} = [B, T_{\theta, \rho}].$$

本講演では、DGA の Hochschild チェイン複体、自由ループ空間の Sullivan モデル、そして自由ループ空間のホモロジー上の homotopy Cartan calculus について紹介し、それらの関係性について述べる予定である。また、有理ホモトピー論を用いた具体的計算や、時間が許せば自由ループ空間の S^1 -同変ホモロジー上の Cartan calculus についても紹介したい。

参考文献

- [FK] D. Fiorenza, N. Kowalzig. Higher brackets on cyclic and negative cyclic (co)homology. Int. Math. Res. Not., 2020(23): 9148–9209.
- [KNWY] K. Kuribayashi, T. Naito, S. Wakatsuki, T. Yamaguchi. Cartan calculi on the free loop spaces, arXiv:2207.05941.